

京都建築事務所

想いをカタチに、想い以上の感動を



株式会社 京都建築事務所
代表取締役社長 細見 建司

〒604-8083

京都市中京区三条通柳馬場東入
中之町 10 番地

TEL:075-211-7277

FAX:075-211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>



医療福祉施設の新築、増築、改修等、お気軽にお問合せください。

総合社会福祉研究所 2023 年度総会のご案内

日頃より総合社会福祉研究所の諸活動にご協力たまわり、感謝申し上げます。2023 年度の総会を、下記の通り開催いたします。会員のみなさまには、7 月末に議案書および総会の案内文をお届けいたします。ご参加のお返事または委任状を、同封の返信用はがきにてお知らせくださいますよう、お願い致します。

日時：2023 年 8 月 26 日（土）10 時～11 時 45 分

場所：エル・おおさか 本館 10 階（松・竹）

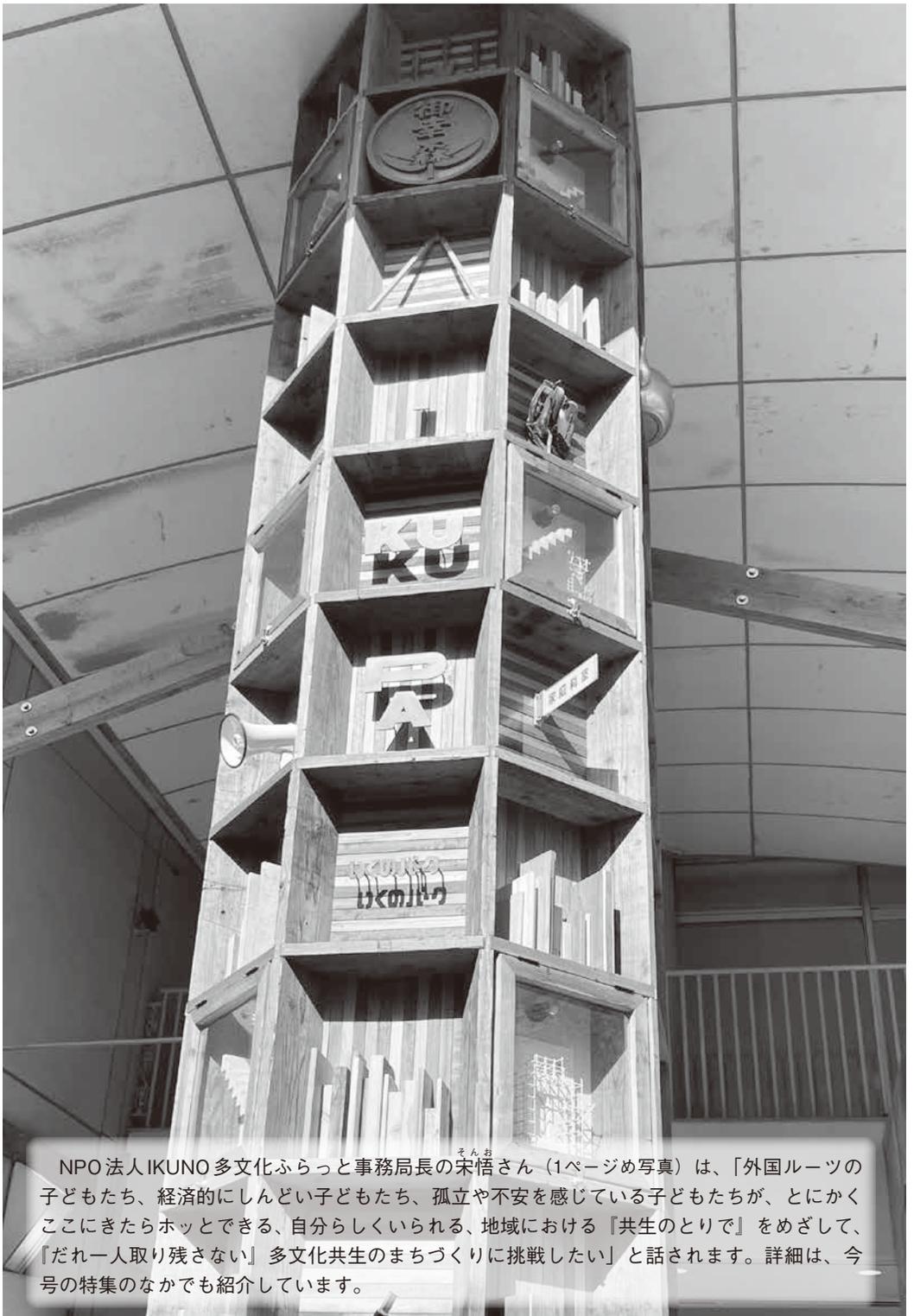
総会后、13 時より開催される研究交流集会にも、ぜひご参加ください！

大阪市生野区 共生の歴史をいまこそ振り返る



みゆきもり

2023年5月、廃校になった御幸森小学校跡地（大阪市生野区）に、「コーライブズパーク（略称・いくのパーク）」がオープンしました。「コー」は一緒に、「ライブズ」は命・人を真ん中に、「パーク」はだれにでも開かれた場所に、という思いが込められています。市民団体の事務所、学習サポート教室、さまざまな言語の絵本が見られる図書室～ふくろうの森～（写真）、カフェなどが、改装された小学校の教室に入っています。そして、子ども食堂～てんこもり～や農業体験などの課外活動、国籍や民族などの境界をまたぐさまざまなまちづくり事業もとりくまれています。

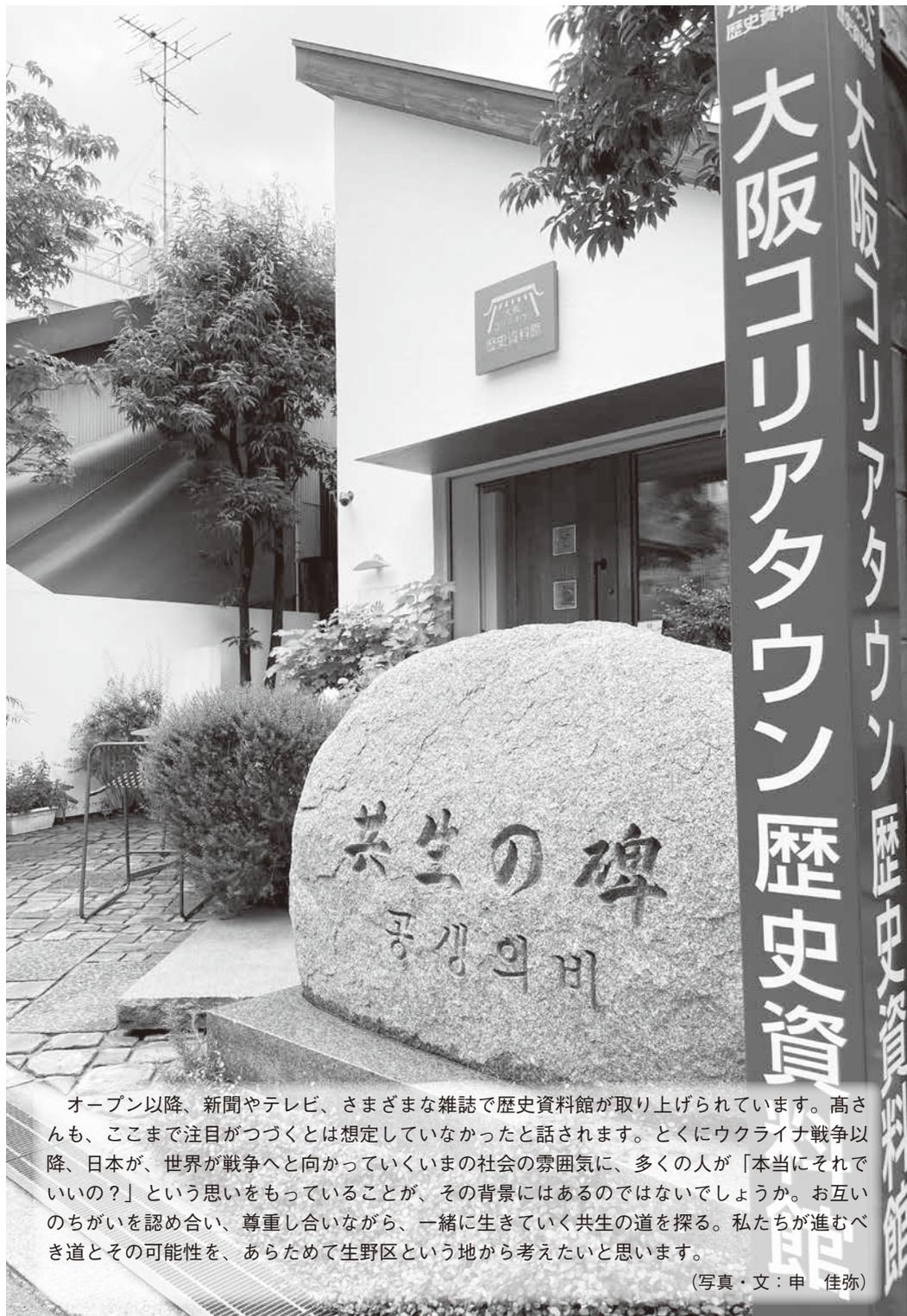


NPO 法人IKUNO 多文化ふらっと事務局長の宋^{そんお}悟さんは、「外国ルーツの子どもたち、経済的にしんどい子どもたち、孤立や不安を感じている子どもたちが、とにかくここにきたらホッとできる、自分らしくいられる、地域における『共生のとりで』をめざして、『だれ一人取り残さない』多文化共生のまちづくりに挑戦したい」と話されます。詳細は、今号の特集のなかでも紹介しています。



「いくのパーク」のオープンと同時期の今年4月末には、大阪コリアタウンに、「大阪コリアタウン歴史資料館」がオープンしました。いまや年間200万人以上の観光客が訪れる大阪コリアタウン。かつては「猪飼野^{いかいの}」という地名で、日本の植民地下、朝鮮半島から生活の場を求めて渡ってきた人たちがここで生活の居を築きました。そこに「朝鮮市場」と呼ばれる市場が生まれ、整備されて現在の「大阪コリアタウン」となります。

「この歴史は、『在日コリアンの歴史』だけでなく『日本の歴史』でもあります。差別の問題や衝突がありながらも、在日コリアンと地域の市民^{こまちよんじや}と一緒に築いてきた共生の歴史を、少しでも多くの人に知ってもらえたら」と館長の高正子さん^{たかまさこ}は話されます（写真は館長の高さん〈右〉と本誌編集室の朴）。



オープン以降、新聞やテレビ、さまざまな雑誌で歴史資料館が取り上げられています。高さんも、ここまで注目がつくとは想定していなかったと話されます。とくにウクライナ戦争以降、日本が、世界が戦争へと向かっていくいまの社会の雰囲気、多くの人が「本当にそれでいいの?」という思いをもっていることが、その背景にはあるのではないのでしょうか。お互いのちがいを認め合い、尊重し合いながら、一緒に生きていく共生の道を探る。私たちが進むべき道とその可能性を、あらためて生野区という地から考えたいと思います。

(写真・文：申 佳弥)

●特集● 足もとから見なおす「平和の準備」

ローカリズムの井戸を掘りつづけていくということ

—多文化共生への挑戦 宋 悟 10

学びと友情こそ、平和のための抑止力 上原 一路 18

一人ひとりが平和の担い手になっていくために 池尾 靖志 24

●トピックス●

第28回社会福祉研究交流集会のご案内 30

憲法を学びなおし、福祉を取り戻す

—社会福祉経営全国会議トップセミナー 32

医療現場からも見える、入管法改定の問題 大嶋 祐介 36

コロナ5類へ 高齢福祉現場の実態と違和感 小林 浩司 40

●連載●

WORK WORK—わくワク—

笑顔はじけるポップコーン 就労継続支援B型リアクタント 48

婦人保護運動のこれまでとこれから (5)

生野学園の歴史と実践を振り返りながら、次へ
安原能里子・金子 明代・山本八重子 50

ケア労働処遇改善キャンペーン! (13)

「待たなし」、障害福祉も異次元対策を 峰島 厚 54

夕映えのとき～人生の終え方を支える実践～

一人ひとりの思いに耳を傾け、向き合い、応える
棚橋 理・植村 拓人 56

JOB & ACTION 全国福祉保育労働組合 (29) 60

全国一律1500円の最低賃金制度の実現で賃金底上げと格差是正を

私の履歴書 社会福祉経営全国会議 (29)

あんたが大將 田近 吉雄 62

阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎 (49) 水野阿修羅 64

相談室の窓から

家族の理解と応援が背中を押して② 青木 道忠 66

育つ風景

4月からの2か月半 清水 玲子 68

映画案内 『無法松の一生』

吉村 英夫 70

現代の貧困を訪ねて

闇バイトと貧困ビジネス 生田 武志 72

似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート

デジタルは及ばざるが如しじゃ! ラッキー植松 74

ホームレスから日本を見れば ありむら潜 76

花咲け! 男やもめ 川口モトコ 77

●表紙の絵●
神門やす子

平和を創る 紛争解決学・平和学

株式会社ビープロダクション代表・中央大学兼任講師 高部 優子

「ひどいじゃん。なんで戦争になったの？ 戦争にならないためには、どうしたらいいのよ？」。これは、私が高校の社会科教員だったとき、授業で戦争被害者の映像を見せたところ、生徒がおこなった質問です。表面的には応答したものの、この質問は、自身の疑問でもあり、そのときは確固とした答えをもっていないませんでした。また、このような質問を引き出し、思考を刺激し、学ぶ意欲を促進させる映像の力を実感し、そんな映像をつくりたいと思います、映像の仕事に転職しました。

そんななか、紛争解決学と平和学に出会いました。「紛争」は、戦争などの武力紛争だけでなく、身近な喧嘩や争いことも含まれます。その「紛争」を、非暴力で建設的に解決する方法を研究するのが紛争解決学という学問です。紛争の解決策は「スキル」であり、だれもが習得できるのです。

また、平和学では長年「平和」の概念について議論されていますが、ヨハン・ガルトゥングは、「平和」を戦争がないだけではなく、あらゆる暴力がないことと同時に、平和を創る行動やしぐみがあることが平和だと、意味を深化させました。紛争解決学と平和学に、私がずっと抱きつづけてきた「なぜ戦争が起きるのか。戦争にならないためにはどうしたらいいのか」という疑問の答えがありました。一人でも多くの人に紛争解決や平和学の理論やスキルを伝えたいと思います、短いアニメーションも制作しました。（作品はビープロダクションのサイトで購入できます。↓ <https://www.bepro-japan.com/>）

平和教育も、戦争を知るだけではなく平和を創るという点を重視した実践をおこなっ



たかべゆうこ

高校の社会科教員、NHKでディレクターを経て、平和学・平和教育、紛争解決学に関する博士論文を執筆。現在、平和に関する映像を制作する会社ビープロダクション代表・中央大学兼任講師。アニメDVD付き書籍『みんながHappyになる方法 関係をよくする3つの理論』（2012年）、『平和創造のための新たな平和教育——平和学アプローチによる理論と実践』編著。

ています。私たち一人ひとりが描く平和な社会は、安心でき、ゆたかで美しく、しあわせに満ちたものでしょう。しかし、現実の社会は、見える暴力・見えない暴力であふれています。そのような現実社会を理想の平和な社会にするためには、何が必要なのでしょう。何をすればいいのでしょうか。そのようなことを話し合うことが可能になるような「場」を、仲間とつくってきました。

たとえば、平和学会の平和教育プロジェクト委員会は、暴力を低減し、平和をどう創造するか、具体的な紛争解決の方法を学んだり、独創的な発想の訓練をするような対話型のワークショップを実践してきました。そこでは、誰もが語り、参加することができるよう工夫をしています。まず、ウォームアップでリラックスし話しやすい雰囲気をつくり、身近なことをテーマにしたり、体験をしながら対話によって学び合えるようにしたり、参加者各自が持つ知識や情報の偏りで対話のバランスが崩れないよう、フィクションの設定を提示するなどをおこなってきました。（平和教育プロジェクト委員会の実践はウェブサイトでご覧になれます。無料のアニメーションもダウンロードできます。

↓ www.psjaj.org/aboutpeacestudies/

幅広い意味の「平和」を阻害する、さまざまな問題や課題を「紛争」と捉え、非暴力で解決する方法を考える。そして「平和」を阻害する暴力をなくすだけではなく、「平和」を維持するものや構造を創り出していく人々の営みこそが、戦争にならないための大きな力だと考えています。

私たちがもっている平和をつくる力

二〇一五年、安倍政権下で安全保障関連法、いわゆる安保法制が制定されました。それにより、それまでの日本が攻撃されないと武力は使わないという個別的自衛権の立場から、日本が攻撃されていなくても、集団的自衛権を行使して武力が使用できるようになりました。法律面で戦争に参加できる体制が整えられたのです。

そして二〇二二年一二月、安保三文書改定により、実践面での戦争への準備がすすめられました。米軍と協力して敵基地を攻撃できる敵基地攻撃能力の保有を認めたのです。加えて、防衛費を五年間で四三兆円に増やすことも決めました。それが実現されれば、日本の防衛費は米中に次いで世界三位になるであろうと言われています。

いっぽう、二〇一〇年には、政府は南西諸島に部隊を配備していくことに言及し、二〇一六年に与那国島にあらたな陸上自衛隊駐屯地が開設されたのを皮切りに、宮古島、奄美大島、石垣島にも駐屯地が開設されました。

昨年一月には、与那国島で弾道ミサイル飛来を想定した初の住民避難訓練がおこなわれ、日米共同訓練の頻度も大幅に増加しています。今年三月には、沖縄県で武力攻撃からの避難を想定した図上訓練を実施。石垣市や与那国町など先島諸島五市町村の住民約一二万人と観光客ら約一万人を九州七県に避難さ

せ、沖縄本島などの住民一三〇万人あまりを屋内避難させる計画ですが、実現にはさまざまな課題が山積しています。

こうした一〇年来の日本のうごきを見て、日本は戦争を放棄した平和主義を守る国だと言えるでしょうか。海外から見て、日本は平和国家で自衛隊は専守防衛に徹するのだと映るでしょうか。

今年五月一〇日、米紙「タイム」は、その表紙で岸田首相の顔写真とともに、「日本の選択」と題し、「首相は数十年の平和主義を捨て、自国を真の軍事大国にすることを望む」と紹介しています。政府が抗議し、見出しが変更されましたが、海外にはこの間の日本の動きが、「軍事大国化」と映っていることを、如実に表しているのではないのでしょうか。

本誌八月号では、例年「平和と福祉」をテーマに掲げ、おもには戦争の経験を生かして若者に受け継いでいくか、平和をどう守るかを考えてきました。しかしここ数年は、まさにいまそこに「戦争」が近づいてきているようです。一步違う段階に、日本は足を踏み入れたと言えます。

本誌でもたびたび、軍拡競争では平和は守れないことを訴えてきました。平和を守るためには、核をはじめとするすべての軍事力、軍事組織に反対し、外交努力によって対話を重ね、お互いを知っていくしかないのです。外交というと国同士の話になってしまいますが、日本に住む私たち一人ひとりにもできることがあります。

今号に登場してくださった国際関係論の研究者・池尾靖志さんは、「平和をつくっていくためには、リアルを知るしかない。現場をもっている人の声は大きな説得力をもっている」と話します。平和なくして福祉は成り立ちません。日々目の前にいる人のいのちと暮らしを守り、発達を保障していくことを仕事とする私たちは、平和をつくっていく大きな力をもっているのではないのでしょうか。

(編集主任 申佳弥)